

平成29年度 県立水戸第一高等学校自己評価表

| 目指す学校像 | 授業を中心とした、新鮮で活気ある学習活動を展開する学校 | | |
|---|--|---|------|
| | 生徒が、特別活動(学校行事, ホームルーム, 生徒会活動), 部活動など多様な活動機会の中で切磋琢磨し, 能動的な経験を蓄積しながらたくましく成長できる学校 | | |
| 生徒一人ひとりの進路希望実現に貢献できる学校 | | | |
| 昨年度の成果と課題 | 重点項目 | 重点目標 | 達成状況 |
| <p>平成28年度の各教科・校務分掌・年次(学年)の達成状況はAが4, Bが6であり, 目標はほぼ達成できたといえる。</p> <p>進学状況については, 特に国公立大学の合格者数が4年連続で200名を超えている。現役合格者は129名である。東京大学は現役で12名, 合計で16名が合格した。一橋大学, 東京工業大学の合格者は減少したが, 東北大学と筑波大学はともに昨年より増加した。また国公立医学科合格者は, 現役3名を含む8名にとどまった。早稲田大学, 慶應義塾大学, 上智大学の合格者は39名にとどまり, 私立大学全体の合格者数も減少の傾向にある。</p> <p>特別活動については, 部・同好会活動の加入率が90%を越え, 10以上の部が全国大会・関東大会に出場している。さらにホームルーム活動, 生徒会活動も活発に行われている。クラスマッチ・学苑祭・歩く会をはじめとした学校行事は, 生徒主体の実行委員会によって自主的に運営され, 充実した内容となっている。</p> <p>平成23年度から実施している60分授業をさらに効果的に進めていくために, より一層授業の質の向上に努めるとともに, 生徒の心に火をつける教育を進めていきたい。</p> | 教育課程の工夫改善と学習指導の充実 | 単位制を活用しながら, 教育課程の工夫改善を行い, より教育効果の高い学習指導の充実を図る。 | A |
| | | 土曜課外を計画的に実施し, 学力の向上を図る。 | B |
| | | 生徒一人ひとりの「進路志望」に応じた選択を実現するため, 科目選択のガイダンス等の充実を図る。 | B |
| | | 60分授業の効果を高めるために, さらなる授業の質の向上を目指して, 授業に係る研修機会の確保・充実に努める。 | A |
| | 進路意識の高揚と3年間を見通した学校生活の充実 | 卒業生の協力を得て, 高度な専門分野に興味・関心を抱いている生徒対象の進路講演会などを開催する。 | A |
| | | 新入生のための合格者ガイダンスなど, 3年間を見通した学習や充実した学校生活を実現させるための指導を行う。 | B |
| | 健康安全指導の充実 | 健康安全に留意し, 心身ともに健康で, 生き生きとした学校生活を送れるよう指導する。 | A |
| | 特別活動等の充実 | 特別活動(学校行事, ホームルーム, 生徒会活動), 部活動等の充実をはかり, 創造性を養い, 自主自立の精神の確立に努める。 | A |
| | | 学校行事を適切に配置することにより, 各行事の円滑な実施と充実に努め, 新たな伝統の創造を目指す。 | B |
| | 将来を見据えた教育活動の見直しと充実 | グローバル化する社会に対応できる人材を育成するために, 変化する社会を見通しながら, 教育活動の見直しと充実を図る。 | A |

| 評価項目 | 具体的目標 | 具体的方策 | 評価 | 次年度(学期)への主な課題 |
|------|--|---|----|---|
| 各科共通 | 教科指導全般 | 生徒が主体的に学習に取り組むよう、進路意識を高揚させながら指導する。 | A | 三年後の共通テストを見越して、3年生全員、試行テストに取り組ませることができた。今後も着地点を見据え、また時にそれを生徒に示して意識させることで、進路意識を高める指導を継続していきたい。 60分を有効に使うため、各学年とも小テストを実施したり、また生徒の習熟状況に応じて進度や指導内容を軌道修正しながら進めることができた。次年度も継続したい。 |
| | 充実した授業を展開し、各教科・科目の目標を達成する。 | 60分授業の効果を高めるため、授業の進度や指導内容を再構築し、授業内容の充実に努める。 | B | |
| | | 60分授業を生かした指導方法等のさらなる改善を図るための研修を実施する。 | A | |
| 国語 | 国語の学習に対する意欲・関心を高める。 | 授業方法を工夫改善し、教員相互に授業を公開するなど、随時教科内における研修等を行い、指導方法に対する研究を深めていく。 指導内容・方法・進度について、各学年の担当者間での打合せを綿密に行う。 | B | 日々の指導について、各学年の担当者間においては相当綿密に、また頻繁に打合せを行うことができた。相互の授業公開や教科全体での研修をさらに増やすことができるよう計画したい。 小テストの実施による基礎学力の充実、授業で課した課題や国立大個別試験の過去問題への添削指導、副教材の有効な活用、定期考査における設問構成の工夫については、各自が積極的な意識のもとに取り組むことができた。特に校内模試について学年を越えて今後のあり方について検討できた。 |
| | 基礎学力の定着を図り、段階的に難関大学入学試験に対応できる学力の養成を図る。 | 小テスト等によって基礎学力の定着を図る。 適宜添削指導を実施し、難関大学入試に対応可能な文章読解力と表現力の養成を図る。 副教材等を利用し、学習内容の活用を図る。 定期考査について、基本から発展までの設問構成を工夫し、平均点50～60点台の問題を考査する。 | A | |
| | 自立的な学習を促し、豊かな言語能力を持った生徒を育成する。 | 課題等を生徒の実態に即して適宜与え、生徒が自主的に学ぶ姿勢を育み、段階的に自立的学習に移行できるよう促す。 読書意欲を喚起し、読書感想文コンクールへの取り組みを奨励する。 | A | |
| 各科共通 | 教科指導全般 | 生徒が主体的に学習に取り組むよう、進路意識を高揚させながら指導する。 | A | 大学の学問内容(歴史学、地理学、政治学、経済学など)との関連を意識した授業を基本としながら、思考力、判断力、表現力などの生徒の能力を伸長する方法について研究を進めたい。 本質的なことをわかりやすくを目標に、各科目において授業内容の充実に努めた。さらなる改善を図っていきたい。 将来の地歴科における「総合」科目や公民科の「公共」の設定に備え、現行科目において年間の授業計画の見直しや、授業内容・教材・授業方法などの検討に着手したい。教員相互の研修はもとより、積極的に外部の研修会にも参加して新たな情報の確保につとめ、さらなる指導法の向上に努めたい。 |
| | 充実した授業を展開し、各教科・科目の目標を達成する。 | 60分授業の効果を高めるため、授業の進度や指導内容を再構築し、授業内容の充実に努める。 | B | |
| | | 60分授業を生かした指導方法等のさらなる改善を図るための研修を実施する。 | B | |
| 地歴公民 | 知的好奇心に溢れた良識ある若者の育成に即した授業を展開する。 | 生徒の学問に対する知的好奇心を高め、社会へ積極的に関わるための教材を準備し、効果的な発問を通じて理解度を確認しながら授業を展開する。 国際的な視野を広める授業内容の研究を行う。 授業内容に関連して自ら課題を設定させ、興行きと幅のある思考力・判断力を養う。 | B | 1年次での「税の作文」、新聞を利用した課題学習や、2・3年次各科目での科目特有な見方・考え方を養う授業を引き続き継続する。授業で喚起された興味・関心をもとに、生徒自らが課題を設定し、知識を活用して思考力、判断力を伸ばせる探究が行えるよう支援をしていきたい。 知識の活用と思考力の発揮を中心とした授業・考査を実施し、入試に必要な実践力を継続して育成することが必要である。3年次の9月からは、国公立大二次試験対策、基礎力養成など多様な課外を実施し、上位者から下位者まで学力の向上と差の解消を図る。科目担当者間で入試問題の研究、授業見学など情報交換を頻繁にして、指導方法の向上を図っていきたい。 |
| | センター試験・個別試験に対応した授業内容と積極的な問題演習によって、進路実現のための学力伸長を図る。 | 国公立大個別試験、難関私立大学試験、センター試験の分析を綿密に行い、授業や考査において、それを反映させることにより実力の向上を図る。さらに、学級間や上位・下位者の差を縮小する指導法を研究し、課外等を積極的に実施する。 指導力の涵養を視野に入れ、高い見識の修得を目指した教科研修を積極的に実施する。 科目担当者間での授業の進度、指導方法など綿密な打合せを行う。 | A | |
| 各科共通 | 教科指導全般 | 生徒が主体的に学習に取り組むよう、進路意識を高揚させながら指導する。 | B | 授業や課題で扱う内容に発展的な問題を取り入れ、生徒が興味・関心をもって主体的に取り組めるよう工夫した。継続して指導方法の研究に努める。 生徒の実態把握に努めながら、授業の進度や指導内容を検討した。次年度も検討を重ね、よりよいものを構築していく。 予備校主催の研修会への参加や教科内での授業参観を積極的に実施し、指導方法の研究に努めた。さらに教科内で情報を共有し、継続して研究をしていく。 |
| | 充実した授業を展開し、各教科・科目の目標を達成する。 | 60分授業の効果を高めるため、授業の進度や指導内容を再構築し、授業内容の充実に努める。 | A | |
| | | 60分授業を生かした指導方法等のさらなる改善を図るための研修を実施する。 | A | |
| 数学 | 授業に積極的に取り組ませるとともに、自主的に数学に取り組む態度を育成する。 | 予習・復習を励行させるとともに、課題等の提出を徹底させる。 学年担当者間の連絡を密にし、教材の精選と授業内容の充実に努めるとともに、様々な解法を例示するなどして、生徒の興味・関心を高める。 | A | 予習・復習を励行し、学習内容の定着が図れるように指導した。課題提出の徹底を図るとともに、授業や課題に対して受け身の生徒もいるので、さらに工夫を図る必要がある。 学年担当者間の連絡を密にして、教材を精選し、授業内容の充実に努めることができた。次年度も生徒の実態把握に努め、よりよい指導方法を探索していく。 |
| | 進路実現のための学力向上を図る。 | 考査・試験の問題は精選・検討を重ねるとともに、結果についても分析を行い、継続的な指導に活かす。 入試問題等を日頃から研究し、積極的に授業に取り入れ、入試に対応できる力をつけさせる。 入試問題分析会(東京大・京都大・東北大)を実施し、入試問題研究や教材研究により教員のレベルアップを図る。 | B | |

| 評価項目 | 具体的目標 | 具体的方策 | 評価 | 次年度(学期)への主な課題 | | |
|------|--------------------------------|---|---|---------------|---|--|
| 理科 | 各科共通 | 教科指導全般 | 生徒が主体的に学習に取り組むよう、進路意識を高揚させながら指導する。 | A | 生徒の主体的な取り組みを高めるような素材を採用し、授業の中での活動を重視してきた。来年度も、改善を進めていきたい。 生徒の状態を注意深く観察しながら、授業の進度および深度を工夫して進めていった。来年度も継続していきたい。 校内・校外の各種研修会に積極的に参加し、指導技術の向上に努めた。来年度も研修を継続していきたい。 | |
| | | 充実した授業を展開し、各教科・科目の目標を達成する。 | 60分授業の効果をも高めるため、授業の進度や指導内容を再構築し、授業内容の充実に努める。 60分授業を生かした指導方法等のさらなる改善を図るための研修を実施する。 | A A | | |
| | | 知的好奇心を育て、理科学的な思考が身につくよう授業展開を工夫する。 | 授業中の演示実験や生徒実験など生徒が実際に実物を見たり、触れたり、測定したりする機会を大切にすることで、理科が本来持っている魅力を生徒が肌で感じられるよう教材・実験を工夫する。また、実験レポートを生徒が理科学的思考を身につける重要な機会ととらえ、レポートの作成を経験することで、生徒自ら理解しようとする姿勢を育てる。 フィールドワークを中心とした実践的プログラムを体験させることで、課題研究の「目標設定」、「研究方法」、「データ分析」、「結果の考察」、「発表手法」のスキルを向上させ、問題解決能力の向上を目指す。 | B | | |
| | 基礎学力 | 基本的な知識を定着させるために、授業への集中力を高め、問題演習をできるだけ多く行う。 | 「基礎」のついた科目「物理基礎」「化学基礎」「生物基礎」「地学基礎」は、その対応策を講じると共に基礎学力の向上と受験を意識した問題演習の充実に努める。 文系の生徒に対しては、基礎力を付けさせる授業をめざし、繰り返し問題演習を行うことにより、基礎学力の定着をはかる。 理系の生徒に対しては、先端の内容に触れられるような機会をつくるとともに、単に知識を身につけるのではなく、法則や原理の意味するものを深く考えるよう授業や実験を工夫する。 | B | B | 「基礎」のついた科目については、十分な演習時間を設け、基礎学力の定着を講じることができた。理系の生徒においても、計画的な授業進行と演習を行った。先端の内容に触れる機会を一層設けたい。来年度については本年の成果を受け、内容をさらに発展させていきたい。今後、新しい入試制度に対応するような授業計画や評価システムの検討を行っていきたい。 |
| | | 3学年では、センター試験、個別学力試験対応の問題演習を積極的に取り入れ、生徒の進路希望実現に向けて対応する。 | 授業においては、普段の授業から個別学力試験(記述試験)に対応できるように、原理の理解や用語の正確な定義などを意識させる授業を行う。 センター試験の問題演習を積極的に数多く取り入れるとともに、自主的に問題演習に取り組むよう意識付けをする。 | A | A | 充実したセンター試験の対策をとることができ、結果に結びつけることができた。個別試験については、また結果を掴めていないが、今年度の問題を参考に、指導を深めていきたい。 |
| | 生徒に反復学習をさせる。 | 原理・法則の理解度は、生徒自身がどれだけ問題演習を行ったかに比例する。そこで、生徒に適切な問題集を与え、問題を解いた結果をノートに書かせ、それを提出させることで、反復練習の機会を提供する。 | A | A | 原理原則の理解度をかなり進めることができたと考えられる。来年度については、より高度にまた、広範に情報を伝える作業を進めていきたい。 | |
| 保健体育 | 各科共通 | 教科指導全般 | 生徒が主体的に学習に取り組むよう、進路意識を高揚させながら指導する。 | A | 生徒の積極的な学びをさらに高めるために、アクティブラーニングの視点をおおいに取り入れた授業実践に努めたい。 生涯スポーツにつながるマイスポーツの獲得に向けた指導に努めたい。 各種研修会への参加や授業方法の改善を図り、生徒の主体的な学習に活かしていきたい。 | |
| | | 充実した授業を展開し、各教科・科目の目標を達成する。 | 60分授業の効果をも高めるため、授業の進度や指導内容を再構築し、授業内容の充実に努める。 60分授業を生かした指導方法等のさらなる改善を図るための研修を実施する。 | A A | | |
| | | 歩く会の高い完歩率を維持させる。 | 集団行動における規律と態度を学ばせ、有意義な集団生活を送らせる。 体力向上のために、計画的な授業計画を立て、意欲的な楽しい展開とする。 | A | | |
| | 基礎体力 | 体力テストの成績の底上げを図る。 | 長距離走への積極的な取り組みにより、体力向上を図る。 本校生の弱い部分の強化を図る内容を工夫する。 特別活動の体育分野における積極的活動を推進する。 本校生徒は筋力に関する種目が弱いので、毎授業において、補強運動を実践する。 | B | A | 体力の向上は本校生徒の意欲的な活動の基盤ととらえ、その向上に努めていきたい。基礎体力が不十分な生徒に対しても目を配り、粘り強く体力強化に取り組むたい。 |
| | | 授業時のケガの防止に努める。 | 正しい動きを身につけることがケガの防止につながるため、細かく基本的な動きを指導するとともに、自ら用具の安全管理に努める態度を育てる。 授業に臨むに当たり、熱中症対策を理解し防止策をたてる。 校外を走ることが多いので、交通安全に注意して身を守ることに、相手に迷惑を与えない行動が取れるように実施する。 | A | A | 基本的なスキルの獲得と安全面への配慮を念頭に授業に取り組むようにする。基本的なスキルは競技性を高めるだけでなくケガの防止にもつながり、安全面の配慮は事故の防止につながる点を踏まえながら指導に努めたい。 |
| | | 「保健」をとおして心身の健康保持を図る。 | 「保健」をとおし、思春期における生徒の健全な成長を促し、地球環境における自分たちの役割を理解させる。 「保健」の授業を通して、思春期における自身の健康課題を理解するとともに、社会的な課題における自身の役割を理解する。 | A | A | 「保健」の授業では、各自の健康課題を理解させ、生活実践に活かす指導を行いたい。そのためには、グローバルな視座に立ちながら健康課題をとらえる指導に取り組んでいきたい。 |
| | | 教科指導全般 | 生徒が主体的に学習に取り組むよう、進路意識を高揚させながら指導する。 | A | A | 基礎的な内容を重視し、さらに本質を幅広く深く理解追求する姿勢を意識させ、進路意識もより高まるよう指導を進めた。次年度も継続して行いたい。 |
| 芸術 | 各科共通 | 充実した授業を展開し、各教科・科目の目標を達成する。 | 60分授業の効果をも高めるため、授業の進度や指導内容を再構築し、授業内容の充実に努める。 60分授業を生かした指導方法等のさらなる改善を図るための研修を実施する。 | B B | B | アクティブラーニングを意識した展開や指導内容の工夫をし充実した授業ができた。生徒は意欲を持って積極的に活動した。次年度も更に工夫を重ねたい。 校外での各種研究会などに参加し、実技・実習のあり方を探れた。音楽書とともに、さらに実技研修を継続し、それぞれが研究会など、県内だけでなく全国レベルでの接触を持つよう努める。 |
| | | 鑑賞の機会を確保するよう努める。 | 校外学習等の鑑賞会を実施して、より多くの作品に接する機会を増やし、本物だけが持つ魅力を体感させ、豊かな感受性と人間性を身につけさせる。 | B | B | 校外鑑賞学習は、音楽書そつての近代美術館での鑑賞会を実施でき、芸術の持つ奥深さを受感できた。目標は概ね達成された。 |
| | 自発的に、課題に取り組む姿勢を持たせる。 | 実技・実習の時間を確保するとともに、その内容を精選し、工夫して実践できるようにする。基礎から応用までバランスの取れた授業内容を目指す。 アクティブラーニングを意識した、能動的な学習を取り入れ、より活性化した授業展開を目指す。 | A | A | B | 積極的に実技・実習に取り組み、内容の充実した作品・演奏を完成させようという姿勢が身に付いた。授業時間はばかりでなく、朝、昼休み、放課後等に自主的に取り組む生徒もいるなど、高い意識で主体的に取り組む姿勢が見られた。次年度も、本校生に適した、基礎から応用までバランスの取れた授業内容を目指したい。また、さらに能動的な学習を取り入れ活発な授業展開を研究していきたい。 |
| | 芸術は感性を高め、人生を豊かにするという意識・態度を育てる。 | 授業で数多くの作品を取り上げ、鑑賞させる事により、芸術に対する視野を広めさせるとともに、ものを見つめる目を養い、そこから真実を発見しようとする態度を身につけさせる。 | B | B | 幅広い作品を学習することで、芸術に対する視野が広まると共に、社会や人生における真の豊かさを探求できる態度が育った。次年度は、より積極的に個人でも美術展や音楽会に行きたいという気持ちが高まるよう指導を進めたい。 | |

| 評価項目 | 具体的目標 | 具体的方策 | 評価 | 次年度(学期)への主な課題 | |
|------|---|--|--|---------------|---|
| 外国語 | 各科共通 | 教科指導全般 | 生徒が主体的に学習に取り組むよう、進路意識を高揚させながら指導する。 | B | 教材内容に対して興味関心を高める活動を多く取り入れ、生徒が主体的に取り組めるよう工夫した。今後も指導方法を工夫するよう努めていきたい。 |
| | | 充実した授業を展開し、各教科・科目の目標を達成する。 | 60分授業の効果をもとめ、授業の進度や指導内容を再構築し、授業内容の充実に努める。 | B | 各科目担当者間で教材作成や指導方法について随時話し合い、共通理解を持って指導できた。次年度は、実力試験や校内模試の検証などをさらに充実させたい。 |
| | | 60分授業を生かした指導方法等のさらなる改善を図るための研修を実施する。 | | A | |
| | 1年 | コミュニケーション英語 では、理解と表現のバランスのとれた指導を行い、英文を正しく理解し、コミュニケーションをとるための基本知識と技能を養成する。 英語表現 では、技能統合型の言語活動を取り入れ、英語で適切に自己表現するための基本知識と技能を養成する。 授業での指導内容と関連させながら、サイロリーダーなどの課題学習を効果的に活用し、自ら英語を学ぶ力を涵養し、正確な英文理解力および表現力を養成する。 テスト問題の改良や適切なパフォーマンス評価を実施して生徒の英語力を正確に測るとともに、更なる学習の動機付けに資するような評価の在り方を考える。 グループやペアワークを多く取り入れ、英語による発信力を強化する。 | B | B | 発問・ワークシートの工夫及び指導者間の情報共有で、効果的な言語活動を促進することができた。今後も研修を重ねて更に効果を高めたい。また、リテリングやサマリーライティングなどアウトプットを意識することで、使える英語力を高めたい、という意欲を高まりが見られた。基礎力の向上に関しては、週に一度行っている小テストや英作文添削を通じて今後も継続していきたい。今後もディベート活動やプレゼンテーション活動などを通じて、英語を使って論理的に考え、説得力を持って表現する力を高めたい。課題と授業を効果的に連動させることで、生徒が自主的に学ぶ姿勢も高めていきたい。また、4技能評価に対応できる指導法、試験の検証などもさらに進めていきたい。 |
| | 2年 | コミュニケーション英語 では、理解と表現のバランスのとれた指導を行い、英文を正しく理解し、実践的なコミュニケーションの基礎となる知識と技能を養成する。また、特に「読む」力を支える語彙・文法・語法などの知識を高める。 英語表現 では、より構成を意識した英作文の指導とともに、ディベートなど技能統合型の言語活動を取り入れ、英語で効果的に自己表現するための知識と技能を養成する。 サイロリーダーなどの課題学習を効果的に活用し、自ら英語を学ぶ力の涵養と正確な英文理解力・表現力を養成する。 調査問題の工夫や適切なパフォーマンス評価(話す・書く)を実施し、生徒の英語力を正確に測るとともに学習の動機付けに資するような評価のありかたを工夫する。 | B | B | 授業や課題を通じて多くの語彙を獲得してきている。文法力に関しては次年度に更なる強化が必要であるが、読解力に関しては順調に力をつけてきている。 書いた話したりする技能については、授業中の発表やパフォーマンステストを通じて動機付けをはかることで一定の成果があった。 ディベート活動を通じ、論理的に考えて英語で表現することに慣れることができた。 サイロリーダーについては、主体的に読書を行う生徒とそうでない生徒との間に意欲の差を感じる者が、多くの生徒は長い物語を読み切ったことで達成感を味わうことができた。 四技能のバランスを取りながら指導できるように、学年担当者間でアイデアを出し合い、ワークシートに反映させることができた。 |
| | 3年 | 英語表現 では、英語で効果的に自己表現するための知識と技能を養成する。基本的な表現はもとより、読んだり聞いたりした事柄について、その内容をまとめること(要約)や、その内容に対する自分の意見を書くなど、まとまった英文を書く力を養う。 リーディング演習では、表現活動を取り入れながら、情報を検索する、正確に読む、など、その目的に合わせた多様な読解力を養う。 音声の活用やリスニング教材の使用により、読解力と並行してリスニング力の向上を図る。 授業外において長文・リスニング・英作文の演習を展開し、総合的に英語力を高める。 エッセイ等のパフォーマンス評価を定期考査等の一環として実施し、生徒の英語力を正確に測ることのできる評価方法を行う。 | B | B | 自己表現のための知識や技能については、大半の生徒が身につけることができた。意見を書くことや要約を書く力については、進路目標に応じて必要な生徒に添削指導を通じて身につけることができたが、全体に対する指導としては、一部不十分な点が残った。 リーディングにおいては、目的に合わせた読みを行うことができたが、ただし表現活動については、入試問題演習を中心に行ったため、一部で取り入れるにとどまった。 リスニング力の向上については、英語表現を中心にしたフリーディング演習においても、十分に高めることができた。 定期考査におけるライティングのパフォーマンス評価については、英語表現において実施し成績に組み入れることができた。リーディング演習においても、応用問題などを一部取り入れてリーディングパフォーマンスを評価することができた。 |
| | 家庭 | 教科指導全般 | 生徒が主体的に学習に取り組むよう、進路意識を高揚させながら指導する。 | B | 基礎、基本的な習得のため、生徒の実態を把握し、生徒の実情を考慮した実習や実験を多く設定し、確実に「生きる力」を身に付けさせたい。 8クラスの授業を2人で担当しているため、教材や指導方法の話し合いを十分行い、連携をして授業を展開していきたい。 次年度も県内の家庭科の先生方6名と「主体的・対話的で深い学び」を育成するための授業実践研究を継続研究を行う予定であり、研究を進めていく。 4月の授業の最初に生徒にアンケートを実施し、中学校で学習した内容や生徒個人の生活力を把握し、年間を通して様々な分野で基礎・基本となる授業を行うよう計画したい。 夏休みの宿題になるホームプロジェクトに関しては、4月からの授業の中で全員が計画的に進めていけるように支援していきたい。 |
| | | 充実した授業を展開し、各教科・科目の目標を達成する。 | 60分授業の定着を図り、授業の進度や指導内容を再構築し、授業内容の充実に努める。 60分授業の定着を図り、指導方法等の研究を進めるため授業に係る研修を実施する。 | B A | |
| | | 基礎・基本の内容を体験を通して理解させ、問題を見つけ、よりよい生活に変えていこうとする態度と生きる力を育てる。 各分野の関連性・重要性を見だし、日常生活と比較させることで、主体的・総合的に生きようとする意識・態度を育てる。 | 実験・実習内容の工夫と精選をし、知識と体験の定着を図る。 自ら学び自ら考える力を育て、身近な生活と自分の人生に反映していこうとする態度が身につく授業の展開と充実に努める。 夏休みの宿題になるホームプロジェクトに関しては、4月からの授業の中で全員が計画的に進めていけるように支援し、日常生活の中の問題点・改善点を認識させ、生活の質の向上に結びつくように工夫する。 | A B | |
| 情報 | 各科共通 | 教科指導全般 | 生徒が主体的に学習に取り組むよう、進路意識を高揚させながら指導する。 | A | 「最先端の研究」や「統計学」など、可能な限り生徒の進路に結びつくようなテーマを選んで授業をおこなうことができた。 指導要領の改訂を見据え、プログラミング教育の充実等、内容を再構成し授業の充実に努めていきたい。 引き続き、高教研情報部の研修や外部のICT研究大会への参加等を通して、最新の情報を得ることに努める。 モラルに関する知識は定着しているが、生徒の中にはまだ問題意識が希薄な者が若干見受けられる。着実な定着を図っていきたい。 各自の興味関心に応じ、「最先端の研究」をテーマに、発表、質疑応答まで生徒が自分たちでプレゼンテーションをおこなうことができた。2年時に全員がおこなう「課題研究」や、その後の進路選択への呼び水としたい。 |
| | 充実した授業を展開し、各教科・科目の目標を達成する。 | 60分授業の効果をもとめ、授業の進度や指導内容を再構築し、授業内容の充実に努める。 60分授業を生かした指導方法等のさらなる改善を図るための研修を実施する。 | B B | | |
| | 学習活動を通じて、情報モラルに対する知識・理解を深め、適切に行動できるようにする。 | 授業において、情報機器の活用や言語活動を通して、個人情報の取り扱いやネチケットなど情報モラルに対する知識・理解を深め、適切な行動に結び付けられるようにする。 | B | | |
| | 各種ソフトウェアを活用してプレゼンテーション能力の向上を図る。 | ワード、エクセル、パワーポイント等のソフトウェアを活用し、効果的なプレゼンテーションをするために必要な「調べる」「まとめる」「分かりやすく発表する」「相互に議論する」能力を高める。 | A | | |

| 評価項目 | 具体的目標 | 具体的方策 | 評価 | 次年度(学期)への主な課題 |
|------|---|---|----|---|
| 教務 | 授業時間を確保する。 | 自習をできるだけ避けるため、早めに出張・年休を把握し、可能な限り授業交換をする。その際、交換による授業のアンバランスにも配慮する。 | B | 出張・年休による授業もほぼ完全に振り替えることができ、振り替えによる授業のアンバランスにもある程度配慮することができた。次年度は急を要する変更の配慮の在り方を検討したい。 |
| | 年間の授業回数を均一化する。 | 授業の曜日変更をして、定期考査間の授業時数を均一化をはかる。 | A | 曜日・時限ごとの授業時間数のアンバランスは年間1～2時間程度に抑えられ、定期考査と定期考査の間の授業時間数もバランスをとることができた。次年度は実力試験とのバランスも検討したい。 |
| | 授業内容のさらなる充実を図る。 | 60分6時間授業をより充実したものとするため、研究構想部と協力して、教員相互による授業研究などを実施する。また、授業研究の時間確保に努める。 | A | 60分6時間授業は定着しているが、次年度から始まる電子黒板の利用を工夫し、授業の質のさらなる向上に向けた取り組みを研究構想部と連携して行っていきたい。 |
| | 平成30年度以降の教育課程の検討をする。 | 単位制を活用し、より教育効果の高いカリキュラムの構築を目指すとともに、大学入試制度の変更を見据えた検討を進める。新学習指導要領による教育課程の検討をする。 | B | 新学習指導要領や高大接続改革の動向を見極めながら、本校に適した教育課程についてさらなる検討を続けていきたい。 |
| | 教育活動を公表する。 | 学校説明会委員会や研究構想部と連携して、中学生対象の水戸一高説明会、小学生対象説明会、学習塾対象説明会の実施により学校を公開する。また、同時に地域住民等に広く水戸一高の教育理念を周知する。 | A | 各説明会や学校公開を予定どおり実施するとともに、校長作成の新しいポスターを各中学校に配付し、広報活動に努めることができた。新たに校外の施設の利用も実施した。次年度は各説明会の時期、内容の検討により、よりよいものにしていきたい。 |
| | 単位制支援システムの運用を図る。 | 支援システムの円滑な運用を進めるために、管理体制を見直すとともに、使用法の徹底や活用法の研究をする。システムの効率的運用で教員の授業研究時間の増加を見込む。 | A | 支援システムの更新は担当者の尽力により順調に運用され、先生方の負担軽減につながっている。次年度は教務の担当者を増やすこと、システムの機能を各担任が活用しやすい環境を整えることに取り組みたい。 |
| 特別活動 | 特別活動、部活動の充実をはかり、創造性を養い、自主自立の精神の確立に努める。 | 生徒の主体的活動を尊重しつつ対話を深め、生徒一人ひとりが、その持つ能力・可能性を最大限に発揮して積極的に活動できるような確かな指導を行う。 ホームルームや各種行事の中で活発に意見の交換ができるように配慮し、自ら徹底して考え自ら答えを見つけて生徒を育てる。 | A | 生徒の自主的自立的活動のもとでの効果的な指導方法や、生徒の創造性を高める指導方法を検討していきたい。あわせて、担当教員が特別活動と他の業務とのバランスをどのように工夫するか、その中で本校の特別活動の質をどう向上させるかを検討していきたい。 |
| | 学校行事を適切に配置し、各行事の円滑な実施と内容の充実を努め、新たな伝統の創造を目指す。 | 全日HR・クラスマッチ・学苑祭・野球応援・歩く会等の学校行事をさらに充実させるために、問題意識を喚起し、ホームルーム、委員会、生徒会での議論を深めさせ、本校の校風を生かした独自の取り組みを目指す。 | A | 今後の本校の在り方を見すえて、伝統を継承しつつ新たな視点から行事の内容や配置等を検討していきたい。 |
| | 高いレベルでの文武両道を実現させる。 | 部活動・委員会活動・生徒会活動を通して、生徒がより生き生きと活動的な生活が送れるよう、タイムマネジメント力向上のための指導助言に力を注ぐ。 失敗を恐れずに何事にも挑戦する心を持った、芯の強い生徒を育てる。 | B | 新年度には、運動部活動について新たなガイドラインや指針の提示が予想される。本校でもこれを受けて、学校生活とのバランスをとりながら高いレベルでの「文武両道」を検討していきたい。 |
| 進路指導 | 生徒一人ひとりに高い進路目標を設定させ、一人でも多くの生徒が進路実現できるよう貢献する。 | 主に、1・2学年と連携し、生徒に先を見据えさせ、授業を中心とした主体的かつ計画的な学習を実践させる。 3学年との連携を強め、進路室の環境をさらに向上させ、進路相談のさらなる充実を図る。 東大を含めた難関大および医学科の研究を通じて、「東大(難関大・医学科)研究会」を機能させ、生徒の意識向上を図る。 | B | 学年との連携のもとに、東大見学会や自治医科大あるいは1年次・2年次での医療機関体験学習等を行った。また、2年次を中心に各大学のオープンキャンパスに参加させた。2年次においては、大学研究室訪問を通して、生徒一人ひとりに高い進路目標を設定させ、主体的かつ計画的な学習が進められるように導くことができた。3年次においては、予備校との連携において東大、医学部だけではなく、一橋大学・東北大学・筑波大学等の対策講座が実現した。生徒アンケートによると、ここ4年進路情報の提供、進路に関しての指導は80%を超える数値を維持している。しかし、進路指導室は利用しやすいという項目が減少に転じてしまった。さらに、一人でも多くの生徒が進路実現できるよう指導の充実をはかりたい。 |
| | 学年との連携を図り、生徒や保護者に、機を捉えて適切な進路情報を提供する。 | 学年と連携をし、生徒や保護者に講演会やガイダンスを通して、進路情報を提供する。 1・2学年も含め、3学年の主任との定期的な情報交換を行う。 「進路通信」を定期的に発行し、情報を提供するとともに、進路意識を高める。 新テストに向けて情報収集を行い、職員間に共有できるよう情報を提供する。 | B | 1年次では、外部の講師に頼らず、学年と進路指導部との協力のもとに本年度も保護者対象進路講演会を開催し、今後の新テストの情報等を保護者に伝えることができた。3年次においては、進路講演会に保護者も参加してもらい、講演会を効果的に実施することができた。また、必要な連絡がある場合には学年会議で情報提供を行った。さらなる質の向上を目指して、生徒や保護者に情報を発信していきたい。「進路通信」に関しては、昨年度よりは、発行回数を増やして、生徒に進路情報を提供することができた。 |
| | 生徒のデータを、3年間通して見渡せるような進路情報システムを確立し、それらの情報データを職員間で共有できる環境を整備し、さらに、指導技術の向上に努め、一層の進路指導の充実を図る。 | 3年間の成績データ集積システムを完成する。 外部の研究会に積極的に参加し、その情報を教員間で共有し、生徒へ還元する。 校内模擬試験の位置付けを確実なものとし、その分析結果を本校独自の進学指導資料として活用する。 現役生はもちろん浪人した生徒も含めて、進路確定まで継続的な指導を目指す。 | B | 3年間のデータ集積に関しては、本年度で3年間の成績集積システムが完成する。校内模擬試験の扱い方、出題意図も各教科・学年で議論が進められ、第3回のデータがより重視されるスタンスが定まった。次年度に向けても良いデータを集積していきたい。浪人生についての指導は、激励会を年2回のペースで実施している。地元の予備校で浪人する生徒が増えたが、卒業しても進路確定まで継続的な指導を目指したい。 |

| 評価項目 | 具体的目標 | 具体的方策 | 評価 | 次年度(学期)への主な課題 |
|------|--|---|----|---|
| 研究構想 | 一人一人が輝く活力ある学校づくり推進事業を充実させる。 | 「心に火をつけるフォーラム」「社会人インタビュー」「校風理解(講演会)」「大学模擬講義(5教科主催)」を通して、自分の在り方・生き方や進路について考えさせる。 課題研究や「知道プロジェクト発表会」を通して、自ら課題を発見し多様な視点から論理的に考察する力や自己を表現し他者に伝える力を培う。 | A | 本校では「心に火をつける教育」推進事業と銘打ち、「総合的な学習の時間」を活用して実施した。生徒の学び意欲を喚起し、高い視点と広い視野を醸成し、将来の在り方・生き方について考えさせることができた。2学年全生徒が課題研究に取り組み、クラス発表会を経て、代表による「知道プロジェクト発表会」を実施することで充実した活動ができた。次年度も継続して取り組みたい。 |
| | 教員の授業力向上を図る。 | 新任教員授業見学会・校内授業公開による実践研修、筑波大学附属高校等の教育研究大会・駿台教育研究所の教育研究セミナー等による指導法研修を行い、質の高い授業を研究する。 校内教員研修会・県外進学校視察を行い、難関大学進学指導やHR経営等の知識やノウハウを蓄積・継承する。 | B | 校内授業公開を年2回実施し、全教職員による相互授業参観に取り組み、授業力向上を図ることができた。筑波大学附属高校等の教育研究大会へ2名、駿台教育研究所の教育研究セミナー等へ5名を派遣し授業研究を行い、各教科へ普及した。校内教員研修会を実施し、本校のベテラン教員による講話からその動的情報を共有し、経験値を継承することができた。また県外進学校視察により、難関大学進学指導等の情報を得ることができた。次年度も継続して取り組みたい。 |
| | 開かれた学校づくりを推進する。 | 中高連携や、高高・高大連携を推進し、相互に連携・交流を深める。 学校公開や「道徳」公開授業を行い、本校の教育活動や取り組みを広く周知する。 | B | 中高連携に関して附属中への出前授業を行い海外研修の成果を普及した。学校公開は、「道徳」や「道徳プラス」の授業を含めて、午後の3時限の公開授業とした。来校者は183名にのぼり、学習活動での高い評価を得ることができた。高大連携に関しては4名の生徒が大学で単位を認定された。次年度も継続して実施する。 |
| | 充実した教育活動により、未来を担う人材を育成する。 | 「総合的な学習の時間」を通して、進路意識と探究心を刺激し自らの将来像を考えさせ、「道徳」「道徳プラス」を通して、道徳的判断力や道徳的实践意欲・態度を育成する。 学習のしおり(シラバス)、課題研究優秀論文集、海外派遣プログラム報告書、紀要、本校独自の道徳ノートを作成し、3年間を見通した学習の計画や1年間の教育活動の振り返りに資する。 | A | 「道徳」や「道徳プラス」の授業を、「道徳ノート」を利用して効果的に実施できた。シラバスの充実により、講座選択や3年間を見通した学習が円滑に進められた。「課題研究優秀論文集」「海外派遣プログラム報告書」「紀要」により、1年間の教育活動の振り返りができた。次年度もグローバル社会で活躍できる人材の育成を目指し、「心に火をつける教育」推進事業、授業研究等による指導力向上対策、開かれた学校づくり等、充実した教育活動の研究に継続して取り組みたい。 |
| 生徒指導 | 基本的生活習慣の確立を図る。 | 挨拶を励行するように指導する。特に来校者に対しては、必ず挨拶をするよう指導する。 校外・地域等に進んで貢献・奉仕しようとする意識を持たせる。 水戸一高生として誇りの持てる行動をするように指導する。 | B | ほとんどの生徒は挨拶の習慣ができているが、全てというわけではない。全校生徒に挨拶はコミュニケーションの第一歩だと言うことを認識させ、誰にでも挨拶ができるよう取り組んでいきたい。 |
| | 学校生活の安全を図る。 | 思いやりのある豊かな人間性を養い、人間関係を円滑にし、水戸一高生として自覚ある行動をとるように指導する。 生徒の精神面のサポート体制を、各学年、保健厚生部、スクールカウンセラーとの連携を密にして、生徒一人一人に対応できるようさらに充実させる。 不必要な現金や物品は学校に持参しないようにし、私物はロッカーの施錠をするなどし自己管理を徹底させる。 スマートフォンの適切な利用法を指導する。特に、ネット上で友人の悪口を書き込んだり、いじめをしないよう指導する。 | B | 全体的に、他者への思いやり、水戸一高生徒紙自覚のある行動が取れて、落ち着いた学校生活を送ることができた。スマートフォンの適切な利用法については更に指導をし、SNS等のトラブルがないよう各学年と連携し、生徒向けの研修会を考えていきたい。また、養護教諭を中心にカウンセリング等により生徒の精神的サポート体制が確立されつつあるので、引き続き各学年と連携しながら対応していきたい。 |
| | 交通安全の意識を向上させる。 | 交通法規の遵守を徹底させる。特に、「自転車安全利用五則」を周知させ、安全な登校を呼びかける。 交通事故ゼロを目指し、交通安全指導を行う。イヤホン等をしたまま自転車に乗らないよう継続的に指導する。 | B | 自転車による交通事故があったが、担任を通して注意喚起したり、登校指導を行ってきたのでその後の発生は防ぐことができています。次年度は自転車の乗り方について、指導の工夫をして、交通事故ゼロを目指していきたい。 |
| | いじめ問題を適切に対応する。 | いじめについて、早期発見、未然防止につとめ、いじめのない学校を目指す。 いじめ問題を解消・解決させるために関係機関との連携を図り、職員全体で情報を共有する。 いじめに対する教職員の意識を高揚させる。 | B | 定期的ないじめ対策会議を開催し、情報を共有することで、いじめの未然防止に努めてきた。また、いじめに関する職員の研修を行い、いじめ未然防止の意識を高めた。次年度もいじめのない学校を目指していく。 |
| 渉外 | 学校行事を各分掌、該当学年と連携して円滑に実施する。 | 入学式・卒業式を、関係する学年や各分掌と連携、協力して円滑に実施していく。 | B | 入学式・卒業式とも保護者の出席率が高く、本校に対する保護者の期待と感謝の気持ちの表れと思われる。近年、車椅子で式典に出席される保護者がいるので、介助の対応をさらに手厚くしていきたい。 |
| | 奨学会関係の事業を、各分掌、各学年と連携して円滑に進める。また、同窓会との関係を深めて創立140周年事業に協力する。 | 奨学会総会並びに奨学会役員会の企画・運営を、各分掌、各学年と協力して円滑に進めていく。 保護者や学年への連絡・報告を適切に行い、様々な学校行事が円滑に進められるように内容を工夫改善していく。 70%におよぶ奨学会総会の出席率を維持していく。 同窓会との連携・連絡を適切に行い、創立140周年事業に協力していく。 高等学校PTA連合会関連行事を用いて、本校教育活動の発信に努めていく。 | B | 奨学会役員会や奨学会総会で予算案の提案をしたが、無事に承認を得て、生徒の活動を支援する項目の増額に貢献できた。次年度の予算についても継続していきたい。奨学会総会の出席率は68.7%であった。悪天候のため例年より5ポイントほど下回ったが、次年度は70%を超える出席率を目指したい。同窓会の140周年事業について、その趣旨を理解していただけるよう職員へ説明を重ねた。次年度11月の140周年式典の成功に向けて、次年度も同窓会との連絡・連携を適切に行っていきたい。11月1日「茨城教育の日」をはじめ、高等学校PTA連合会関連行事へ参加した。 |
| | 奨学金関係事務を適正に実施する。 | 奨学金関係の事務および奨学生の選考に関する事項等を、適切に行っていく。 | B | 奨学金については、生徒の希望に添った奨学金制度を紹介し遺漏なく手続きをすることができた。次年度も奨学金制度の普及と、奨学生の選考について適切に行っていきたい。 |

| 評価項目 | 具体的目標 | 具体的方策 | 評価 | 次年度(学期)への主な課題 |
|------|---|---|----|---|
| 情報 | 教室に配備されたPCの利用に関する研究及び適切な運用を図る。 | 情報機器に慣れた生徒が増えたことや、PCの処理能力の向上にともない、情報機器の様々な使用法が生じてきている。SNSや、オンラインゲーム、動画配信や音楽配信に伴い、FreeWiFiなどの要求が増えると考えられる。自分や他人の個人情報の扱い、ウィルスの脅威などはもとより、些細な書き込みなどが大きな影響を引き起こす危険もあり、安易なSNSの利用等への注意喚起を引き続き行うと同時に、セキュリティの重要性を意識させていく必要がある。 | B | A 教育活動をより充実させるためにWiFi接続の要望も多く、現実的にとどのような対応が可能か検討を進める必要がある。学校評価アンケートなど、教育用PCのセキュリティの設定から動画配信サイトなどへのブロックが多くある事に対する改善を求める意見や、学校でのWiFiを一般的なFree WiFiとして利用したいなどの要望などが上げられており教育セグメントとしてどのような運用形態が望ましいのかセキュリティとの関係からも含めて検討する必要がある。 PC・PJの使用が増え、授業やHRでの活動が活発化しているものと考えられる。たまた、設定が変わってしまう事もあるが、先生方のスキルがそれだけ高いことを意味していると考えられる。今後、電子黒板の導入もあり、どのような使い方を求められるのが研究する必要があるだろう。 WebPageの更新は比較的順調に行われた。部活動の紹介及び活動の状況についての内容を充実させる必要がある。 データ読込時のエラーは大幅に減少させることに成功した。それに伴って見直しの時間も短縮できた。自由記述への対応ができないか引き続き研究する必要がある。 |
| | PC、PJの管理、貸与、運用を図る。さらに、個人情報の漏洩及びウィルスの侵入の防止を図る。 | 職員各々が授業でもPCやPJを利用しており、設定の変更を行えるほど高いスキルを持っている。今後はIoT機器も増え、その脆弱性を突いての、個人情報漏洩やウィルス感染などの危険の増大を意識せざるをえない。さらなる注意喚起が必要である。PCの能力も上がり、デジタル化が進むことで情報を手軽に扱える分、ウィルスの侵入防止、個人情報の保護の重要性を繰り返し喚起する。 | A | |
| | HPの充実を図る。 | 新しいシステムも順調に稼働しており、今年度は学校WebPageの内容をさらに充実させ広報活動に貢献する。 | B | |
| | 学校評価アンケートの処理の簡潔化を図る。 | データの読み込みエラーを減少させる方法を試し、データの見直しにかかる時間を短縮できないか検証する。グラフ化に当たっての正確性を引き続き検証する。 | A | |
| 図書 | 自学自習を支援する図書館として一層の充実を目指す。 | 検索システムの安定を図る。 各教科の授業で推奨図書の紹介を心掛けてもらう。 | B | A 蔵書検索システムは年度途中でトラブルに見舞われ、貸出業務に1週間程度滞りが生じた。ベンダーによるサポートが切れている状態を改善するため次年度は更新を実施し手当を行いたい。推薦図書の紹介については実施まで行えなかったため次年度への継続課題である。 特に課題研究学習に利用が活発に行われ貸出数も伸びている。今後は通常授業の下調べなどでも活用される方策を検討する必要がある。生徒の読書活動の促進としてはビブリオバトルを実施し読書経験を勧める啓発活動を行った。読書会等の検討も行いたい。 図書委員会では、年次ごと数名の役員を選出し毎週定期に会合をもって委員会活動の方針・課題等を話し合った。委員改選で学級選出から外れた生徒も代わって希望委員となり活発に活動しており次年度も期待が持てる。役員以外の委員生徒の主体的参加が課題である。 年報については次年度発行に向けて作業をしている。掲載期間についての概略を記した項目を新規に導入する。資料室については整理・清掃等の整備を行った。 |
| | 読書の推進を図る。 | 授業の中で図書館の積極的な利用を図る。 読書の推進を図るためのアイデアを検討する。 | A | |
| | 生徒委員会活動のさらなる活性化を目指す。 | クラス委員だけでなく希望委員を募り、図書委員会のリーダーを育成する。 | A | |
| | 年報を発行し、本校の足跡を正しく記録する。 | 年報の発行に向けて、効率的な仕事の分担を図る。 資料室を整備する。 | A | |
| 保健厚生 | 学習環境の整備に努める。 | 校舎内外の美化活動の取り組みを推進する。また、ゴミの分別を行うようにする。 教室内・各教科準備室等の空気・照度検査、飲料水の水质検査を実施する。 年度当初に健康診断が集中するなかで授業時間が確保できるよう計画を工夫する。 | B | A 教室の環境整備の一環として今年度教室のワックスがけを実施できたことは良かった。また、健康診断についても例年通り無事に実施することができた。ただし、保護者アンケートでトイレの環境が良くないことの指摘があがったこともあり、対応を進めていきたい。 今年度も多くの生徒に対して保健室で対応したが、そのうちの大部分については方向性を見いだすことができた。スクールカウンセラーも積極的に対応していただけた。生徒の悩みを聞いてもらう場を提供できたと考え。今年度はインフルエンザの影響が大きく、B型も含めて急にクラス内に広がるケースが見られた。ここまで消毒用アルコールのクラス設置などの対応を行い、保健だよりでも注意喚起してきたが、今後もさらに対応を検討したい。避難訓練については予定通り実施することができた。 |
| | 心身ともに健康的な生活習慣の確立に努める。 | 健康診断や保健室利用時などの機会をとらえて、保健指導を行う。 日常生活の中で、事故・怪我等がないように身の回りの注意を払う。 スクールカウンセラーを有効に活用し、心身の健全な育成を目指す。 新興感染症に関する情報と予防法の周知と実践を指導する。 健康情報提供のための「保健だより」を、毎月1回発行する。 防災に対する意識を高め、校内の状況と避難経路の確認を怠らない生活をする。また、校外においても緊急事態に対応できる力をつける。 | A | |

| 評価項目 | 具体的目標 | 具体的方策 | 評価 | 次年度(学期)への主な課題 |
|------|--------------------------|--|----|---|
| 1 学年 | 基本的な生活習慣の養成を図る。 | 挨拶の励行。 時間厳守。 規範意識の醸成。 | A | A 入学当初より基本的な生活習慣が身につけている生徒が多く見られ、年間を通し総じて落ち着いた学校生活を送ることができた。また、学校全体として支援を必要とする生徒も把握され、次年度以降も、保健厚生、養護教諭と連携し継続的に対応していくべきこととして学年団で情報共有することができた。規範意識の面ではごく一部にやや心配な行動も見られたので、今後も注意深く見守り成長を促していくつもりである。 B 「東大探訪」や「社会人インタビュー」などの進路指導部、研究構想部と連携した行事により、学問的興味関心が喚起され文理選択の一助とすることができた。また、学習面では、各教科の指導のもと一年間落ち着いた真面目な学習態度で臨むことができたが、主体的学習への移行については次年度への継続的課題としてさらに手立てを考えていく必要がある。家庭学習時間の平均はほぼ例年同様であるが、各教科からの課題の量を調整するなどして、なお一層の家庭学習時間の確保を促していくつもりである。 A ほとんどの生徒が学校行事、部活動、委員会活動に積極的に参加し、それらの活動の中で他者と関わることで精神的な成長を遂げ、水戸一高生としての自覚と自信を身につけるに至った。次年度は特別活動において学校を引っ張る学年になるので、学年全体としてその自覚を促し、引き続き支援していきたい。 |
| | 自主自律的な学習習慣の養成を図る。 | 知的興味関心の喚起。 主体的学習への移行支援。 家庭学習時間の確保。 | B | |
| | 特別活動への積極的参加を促す。 | 学校行事、部活動、委員会活動への積極的参加の促進。 各種大会へ積極的参加の促進。 | A | |
| 学年 | 基本的な生活習慣の確立を図る。 | ○挨拶の励行。 ○時間厳守の徹底。 ○規範意識の確立。 | A | B 日常における挨拶や時間厳守などの基本的な生活習慣については、多くの生徒が意識して生活しており、年間を通じて良好な生活態度を保つことができた。規範意識についても申し分なく、本校生としての節度ある振る舞いが随所にみられた。 B 養護教諭および保健厚生部との連携のもと、悩みを抱える生徒の早期発見に努めたが、悩みの解消に至っていない生徒もあり、引き続き支援していく必要がある。次年度は進路決定の重要な時期ということもあり、生徒への精神的ケアについては、当該部署との十分な相談と保護者の理解・協力のもとで継続的に実施していく所存である。 B 進路行事および学年行事をとおして生徒の知的興味を喚起したことにより、多くの生徒に進路に対する意識の高まりが見られた。特別活動への取り組みも良好であり、前向きに参加する姿勢がみられた。学習活動については、生徒個々の家庭学習時間の差が拡大し、十分な確保に至っていない生徒も少なからずいる。内発的動機づけを強化し、引き続き主体的な学習の確立に向けて支援を継続していく所存である。 |
| | 健康的な生活の定着を図る。 | 養護教諭との連携。 悩みを抱える生徒の早期発見と細やかな精神的ケア。 | B | |
| | 自主自律的な学習習慣の確立を図る。 | ○知的興味関心の喚起。 ○主体的学習への意識改革。 ○家庭学習時間の確保と学習の質の向上。 | B | |
| | 特別活動への積極的関与を図る。 | ○学校行事、部活動、委員会活動への積極的参加の促進。 ○特別活動への主体的参加の支援。 ○各種大会への積極的参加の促進。 | A | |
| 3 学年 | 自他を尊び、社会に貢献せんとする人間性の育成。 | 最高学年としての自覚の元で、学校行事、ホームルーム、生徒会、委員会、部活動に全力で取り組み自己研鑽させることで、高いコミュニケーション能力を培い豊かな人間性を育む。 | A | A 学校行事、ホームルーム活動、生徒会活動、委員会活動、部活動に、最高学年である意識を高く持ち積極的に行動できた。生徒のこうした諸活動へ主体的取組みにより、生徒個々の多様な能力が大きく伸びることを、改めて確認できた。したがって、学業以外の様々な活動を通して、多くの経験を積み重ね、社会に貢献できる豊かな人間性を育むことができるような環境作りがさらに望まれる。 B 生徒面談やその他の進路行事をとおして、生徒ひとり一人をきめ細やかにサポートし、進路希望の実現にむけて、しっかりと支援することができた。しかし、生徒の進路希望は実に多様化してきており、さらなる細やかな指導が求められる。 また、将来を見据え、自立した学習習慣を確立し、進路目標の達成に向け、自主自律的な学習を促すことができた。よって、進路目標をより明確にするための支援、そして目標を最後まで追求するための支援の重要性がさらに増している。 A 規範意識の確立は概ね達成することができたが、基本的な生活習慣の確立などに苦勞する生徒も一部見られた。保健室の強力なサポートのもとで、教員と保健室、また教員間の連携を密にし、悩みを大きく抱えた生徒に対しても、しっかりと支援することができた。 |
| | 高い進路目標に対して、主体的な学習の実践を図る。 | 面談や進路行事をとおして、高い進路目標を確認し、一人でも多くの生徒が進路希望を実現できるように支援する。生徒自身に自らの課題を考察させ、能動的に学習を促す。 | B | |
| | 将来を見据えた、広く社会に通じる生活習慣の確立。 | 規範意識を確立し、ストレスのかかる生活の中にあっても、時間の厳守、挨拶、掃除等、当たり前なことを当たり前に行えるようにする。 | A | |

評価基準 A:十分達成できている B:達成できている C:概ね達成できている D:不十分である E:できていない